

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100129		
法人名	医療法人 幸紀会		
事業所名	小規模多機能型居宅介護 かがしまの家		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島南1丁目2番1号		
自己評価作成日	平成26年9月8日	評価結果市町村受理日	平成26年11月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_i_2013_021_kani=true&i_gyosyoCd=2190100129-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

通いサービス・訪問サービス・お泊りサービスを柔軟に取り入れ、在宅生活を継続でき、その人らしく過ごして行ける様 地域の方・ご家族様と悩みや情報を聞き取り、また医療的支援の必要の場合も看護師が対応しご利用者様、ご家族様が安心して過ごせるよう支援している。施設に来てない在宅中も安心して過ごせるよう出来る限り訪問サービスを取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅生活の継続ができる事を大切にしている。日中独居の為服薬を忘れる人に、医療機関と連携を取り回数の変更を依頼し、服薬確認のため毎日訪問をしている。入浴時に身体チェック表に記録し、体重の増減に気を付け、衣類の交換ができていないか確認する等、利用者が言葉に表さない事にも細かく気を付けて日常生活が安心安全に送れるように支援している。介護計画作成や見直しには家庭訪問して家族や利用者に意見を聞き、自宅における利用者の環境や家庭状況の変化等を把握し、福祉用具貸与やサービス内容の変更を行う等臨機応変に対応している。泊りの部屋は、カーテンの色や整理筆筒をそれぞれかえて個性を出している。また、ポータブルトイレの位置が入口ドアから見えないようにする等プライバシーに気を付けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を事務所に掲載して全職員が共有し住み慣れた生活を継続して行ける様サービスに活かす	管理者・職員は、会議などで常に理念を意識し、話し合っている。住み慣れた自宅での生活継続のため、随時のサービス変更や、毎日訪問しての服薬支援、食事作りなどを通して理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の構成員に自治会長、民生委員や地域の方と職員、利用者共に交流する	地域の敬老会に参加している。幼稚園児が訪問したり、近所の人を通りがかりに利用者 に会いに来たりしている。散歩すれば花や畑を作っている人からの声かけ等、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は認知症研修に参加、施設内で勉強会を行ないご家族様、ご利用者様との相談に活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議にて状況報告、事故報告、行事報告を行ないアドバイスを受けた時はミーティングで話し合いサービスに活かす	自治会長、老人クラブ会長、民生委員、利用者等の参加がある。外部評価への質問や、防災時の緊急連絡網再作成への提案、災害訓練への質問をもらい、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	岐阜県大垣市伝馬町110番地 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護連絡会議、運営推進会議にてアドバイスをいただいたり電話にて連絡を密にしている	職員体制や、法令解釈への質問、包括支援センターを交えて利用者についての話し合い等、常に連絡を取っている。また、市役所の担当者からブログの作成等の助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の帰宅願望による離設防止に家族の同意を得て玄関、裏口に施錠を行なっている。契約書の内容に沿って拘束のないケアに取り組む	研修等に参加し、会議で職員全員が周知している。利用開始時に自己評価にある特例はあったが、現在は玄関横で見守りし、一緒に外出をする等の取り組みを行う事により、日中は玄関の施錠をしていない。声掛け等も身体拘束に当たらないか留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて虐待の話合い、入浴時等で身体の観察を行ない早期に発見出来る様注意を払う		

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会に参加しミーティングの時に話し合い理解を深め支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項を分かり易く説明し理解、納得していただいた上契約を結ぶ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新人職員には育成シート、人事考査評価シートを設けやりがいのある環境整備を努めている	ふれあい手帳や手紙で状況を報告し、ご意見を下さいと送迎時に声掛けをしている。家族とはそれ以外に、意見をもらう機会を多く作って、仕事の都合による家族の夜間送迎について等を、話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	環境、感染、リスク、接遇、新聞委員、月1回委員会に参加したり、又、職員会議の時に各委員会が順番に勉強会を開催している法人外の研修にも参加している	管理者は職員に個別に意見を聞くほか、気付いた時にいつでもいいから話してくれるようにと伝えている。勤務時間の変更や、研修会参加希望、脳トレーニング採用への提案等、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年4回岐阜市の小規模会に参加し相談や意見交換をして各事業所の問題解決に協力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ご意見箱を設置し意見や苦情問題に努めている。苦情受付職員や第三者委員会のポスターを見える所に掲示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎日ミーティングを行ない職員の意見や提案を聞き業務の改善や職員の取り組み意欲の向上に努めている		

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の身体状況、家庭環境を把握した上でご本人様の悩み、不安、要望に耳を傾けニーズに応じられるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談員の情報を基に家族の悩み、不安、希望などを傾聴してご家族様に介護技術、知識などを伝えて自宅での介護負担の軽減になるようにしている。自宅での様子や施設での状態を、ふれあい手帳に記載と共に送迎時に報告、確認し良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、本人や家族とその時どんなサービスを必要とされているか相談し他のサービス利用を含めたサービスが出来る様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の現在の精神的、身体状況を踏まえて出来る事は行なっただき出来ない部分を支援し共に支え合う関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や家庭での様子を家族と密に話し合い悩みを共有していける関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣への買い物、散歩、花見、町内会の行事への参加を計画して馴染みの場所、人との関係が途切れない様支援していく	正月に事業所を利用している人が姪の訪問を受けたり、職員が本人の依頼を受けなじみの人へ電話を掛けたりしている。いきつけの美容院や洋品店に送迎をして、今までの関係を続けられるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性、価値観などを把握して孤立した利用者様が出ない様、利用者様同士がコミュニケーションが図れる様、職員が橋渡しを行ない支援している		

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人様、家族様の相談に応じ助言や支援を行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様と面談し今までの暮らしやニーズを尊重し希望や意向に沿ったケアプランを立て支援している	職員は、本人が意向を伝えにくい事等は、入浴のゆったりとした気分の時や個室で話を聞いている。表情やしぐさのみならず、体重減少など健康上の変化にも注意し本人の言えない思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や主治医、看護師、担当ケアマネや情報を受け今までの生活環境や暮らし方を把握しより適切なサービスに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者に対する変化、気付いた点があった場合はミーティングや申し送りにて情報の共有を図りカルテに記載し全スタッフが現状把握出来る様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人一人に担当を決め家族会を開いたりケアカンファを行ない相談、話し合いをし、介護計画書を作成している	家庭を訪問し、家族や本人の意見を聞きながら計画を作成している。訪問サービスが計画されていても、家族の状況の変化で計画を変更したり、身体状況の変化でその都度、食事形態を変更したりする等している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別に記録し毎日ミーティングにて話し合い情報交換を行ない必要に応じて介護計画書の見直しを行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様や家族様の状態を把握し、その時々ニーズに対応出来るよう必要なサービスを柔軟に取り入れている		

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に行なわれる運営推進会議にて地域の方々より、いろんな情報や意見を頂きそれを基に住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師には日頃より、利用者様の健康状態を報告、病院受診の必要な場合、家族様の同意を得、職員が付き添う受診する	利用者の多くは、関連病院が以前からのかかりつけ医である。歯科等は家族同行の受診だが、緊急時や家庭の事情によっては、職員が付き添っている。受診前後は関係者間で情報を文書等で交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様の情報や状態の変化に気があれば速やかに看護師に報告対処する		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病室を訪問したり、病院の看護師や情報を頂いたりしている。地域連携室とも連絡を取り合える関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族様と話し合う機会を作り重度化、終末期のあり方について話し合いをし、ご家族様の意向を尊重し主治医と相談し方針を決め支援していく	契約時に事業所の方針を説明している。早い段階で事業所は主治医や家族と話し合いをしている。重度化や終末期に向かうような時は、家族の意向に添える病院や、他施設等を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応はマニュアルを掲示し全職員が理解、把握して対応している。ミーティングで話し合いをしたりシュミレーションを行なう		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回隣接の施設と合同で避難訓練(夜間想定あり)を実施し避難器具(イーバックチェアー)適切に対応出来るよう参加、又、隣接の施設と協力体制を築いている	夜間想定を含め、年2回隣接施設と合同で利用者も参加し、避難訓練を行っている。連絡や搬送方法の優先事項など細かな確認を行っている。しかし、近隣住民への働きかけがなく、参加はない。	法人の運営する事業所グループとして、協力体制が築かれているが、事業所独自での、避難訓練の実施と地域との協力体制を築くことを期待したい。

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	価値観や生活環境など利用者様に合わせた言葉使いや接し方には気を配って対応している。入浴時、排泄時には個人のプライバシーを尊重して対応している。入浴介助では利用者様に合わせて同性介助を心掛けている	管理者・職員は、利用者の言葉を大切に聴いて、一人ひとりに合った言葉使いや接し方を心掛けている。泊りの部屋のポータブルトイレの位置やおむつは棚にしまうなど、細かなところまで心配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が快適に生活出来る様な環境を作り出しその方の意向に沿って本人様の自己決定を促し要望、要求が出せる様支援していく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個々の生活様式や思いを把握しその方に合わせたペース、姿で生活出来る様支援していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の思いを尊重しその人らしい身だしなみ、服装が出来る様支援していく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を安心、安全に楽しんで頂けるよう食前の手洗い、消毒、口腔機能向上運動を行っている。職員も一緒に食卓を囲み会話をしながら食事をしている	隣接施設で調理したものを配膳している。バイキングや、月1度のおやつ作り等、利用者が楽しめる場面を作っている。しかし、個別の力を活かした準備・配膳・下膳などへ参加する機会が少ない。	利用者・家族と話し合い、一人ひとりのできる力を活かし、好みの味付けや、調理、配膳等をして食事を楽しむ事が出来る支援を希望したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が食事のバランスを考え食事摂取量を毎日記録している。午前、午後希望に応じて水分補給に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、おやつ後に洗面所にて口腔ケアを実施し義歯の状態を確認し清潔保持に努めている		

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入浴前、食事前、帰所前等の快適時に声掛けトイレに誘導排泄を促し、おむつの使用を減らし自立支援を行なっている	声掛けや利用者の行動を見てトイレ誘導する事で、オムツからパット、布パンツへと自立が出来る支援をしている。排泄への安全な移動方法を家族本人に伝え、帰宅後もトイレでの排泄が出来るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師と連携し薬事療法にて対応することもあるが、体操や軽運動への働きかけ食事や水分摂取等に工夫して排便コントロールを行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に配慮しながら安全に入浴していただけるよう心掛けている。個々の希望に対応しているが出来る限り入浴していただけるよう声掛けを行なっている	二つの個別浴槽がカーテンで仕切れ、仲良い同士がおしゃべりしながら入浴する事もある。湯加減や、洗う時の力加減、どこから洗うかなど細かい好みを、職員は熟知し個別の希望をかなえている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ起きていただけるよう心掛け食後の昼寝は30分ぐらいにとどめ昼夜逆転を予防している。又、その時々体調に合わせて休んでいただくこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示の元、服薬管理、支援を行なっている。カルテに薬事情報を挟み変更があった時もその都度、家族様より情報をいただき職員で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に参加していただけるレクリエーションを考え、又、季節に合わせたイベントレクや行事等を提供し喫茶タイムを作り気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の同意を得て、外出レクを企画し利用者様の健康状態を確認してから、お花見、買い物ツアーに参加していただき地域の方々との交流を図っている	天気の良い日は、車いすの人と一緒に散歩や喫茶店にでかけ、買い物にも参加している。外出前に段差や洋式トイレの有無を確認し、食事内容の変更等を店に依頼している。カラオケ大会にドレスを着て参加するのを楽しみにしている利用者もいる。	

小規模多機能型居宅介護 かがしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はお断りしています。外出の際は家族の同意を得て持参していただきご自身で好きな物を購入し支払い出来る様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご要望があれば家族に電話をかけお話し出来る様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現在掲示板に利用者様が塗った季節の塗り絵を展示し季節感を一緒に作り上げています。施設内はバリアフリーで車椅子の方も動きやすい様配慮しています。トイレも広く車椅子でも使用できます。冷暖房の調節も随時行なっていて不快の無いようにしています	場所による室内温度の変動を考慮し、窓やカーテンの開閉を頻繁にしている。浴室入口に「ゆ」ののれんを、また、トイレドアには「使用中」「空き」の札をかけ混乱のないようにしている。居間には、菊の花や利用者の作品を飾って季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の間隔は広めで個人のスペースが確保でき、個人での作業や作品作りがしやすい様に配慮しています。気の合った利用者様同士でお話ししやすい様に喫茶スペースを用意しお話し出来る様支援しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋は利用者様の希望で選んでいます。使い慣れた物があれば家族様と相談しお持ち頂き使用していただくことも出来ます。安心して過ごせるよう支援しています	本人が好みで、トイレに近い部屋や静かな部屋等を選択している。普段使っている目覚まし時計や枕・毛布等を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに「使用中」「空き」の札があり使用する時はひっくり返して使用していただいています。トイレの空き状態を確認してもらい利用していただいています。お風呂には「ゆ」の暖簾を掛けて解りやすいよう配慮し支援しています		